

燃えさかる旅の途中

僕たちは燃え盛る旅の途中で出会い
手を取りそして離れた 未来のために

本日は、最終講義にお集まりいただき、ありがとうございました。

私は、生涯にわたり職業選択をしたことはなく、自分のやりたいようにやってきたら現在に至りました。科学者になったのではなく、科学者に生まれたのだと思います。

でも、人生の転機になる出来事は、何度かありました。最も大きな事件は、原口との出会いです。結婚したころ、彼女は言っていました「あなたはマイナスもすごく大きいけど、プラスもすごく大きくて、差し引きすると、ちょびっとプラスなの。マイナスはわたしが引き受けるから、プラスの部分でがんばって」と。でも、このごろは「もう、あなたのマイナスに付き合うのは疲れたわよ。わたしの30年を返して」と言います。なので、私はこれから30年かけて返していこうと思っています。

小学校では、ずっと「協調性欠如、注意散漫、情緒不安定」という評価を受けていました。専属というわけではないと思うが、1年から同じ先生が担任で、4年になる時に新設の小学校に校区が振替えられたら、その先生も転校してきて、卒業まで担任でした。

中学校から高校に進むとき、テニスの強い高校か進学校か迷っていたら、進路指導の先生に、「君はスポーツでは絶対に一流になれないから、学問の道に進みなさい」と言われました。もし、あの時、テニスの道に進んでいたら、今ごろ錦織になっていたかもしれません。
(ここで、原口から「ない、ない」とチャチャ)

中学3年の時、私の希望校を受験させるかどうかという問題で、ある日、3年生担任のすべての先生が職員会議を開き、一人のために全クラスが自習になったことがありました。後で聞いたところによると、ほとんどの先生は無理という意見だったが、体育の先

生が「この子は数学だけはよくできる。論理的思考力があるということだから、今はこんなだけで将来きっと伸びるから、行かせてやりなさい」と言ってくれたらしい。ところが入試を終えてみると、幸運なことに受験者が定員割れしていて、私はたぶん最下位で滑り込んだ。その高校にどうしても行きたかった理由は、入学時から理科偏重の特別なコースがあって、英語と数学と理科だけで授業の大半を占めていたから。

大学受験は得意のはずの数学で失敗し、1校しか受験していなかったのが浪人しました。6問のうち2問解けば合格していたのだが、1問しか解けなかったのだ。非常におもしろい整数論の問題が1問出ていて、これを解くのにすべての時間を費やし、完全な解答を作って満足したが、2問目を解く時間がなかった。予備校の講評によると、「この問題は難しいので避けて、他の問題を解くのが賢明である」とあった。僕は賢明ではなかったらしい。おもしろい難問に出会うと、状況も考えず夢中になってしまうところは、その後も生涯にわたり引きずっている。翌年も同じ大学1校しか受験しなかったが、その年は整数論の問題は出なかったのが、数学で失敗することはなく、合格しました。

浪人したので大学院に入るのは1年遅れたのだが、そのおかげで、ちょうど分裂酵母研究の黎明期に出会えました。1年早く研究を始めていたら、より困難であっただろうと思います。何が良かったかは、終わるまでわかりません。私が今あるのは、ソ連空軍機とのすれ違いと多くの人たちとの巡り合わせのおかげです。本当に、ありがとうございました。

心を
燃やせ

Thank you for travelling with us

燃えさかる旅の途中



旅はまだ
終わらない

「僕は幸せな人生を生きたと思うよ」

「まだ過去形にしないでくれる？」